

第2・3学年 国語科学習指導案

日時 平成16年10月22日(金)5校時
授業者 松本 孝嗣

(第2学年)男子3名 女子2名 計5名

- 1 単元名 「話し方をくふうして はっぴょうしよう」
教材名 「あったらいいな、こんなもの」

2 単元設定の理由

(1) 単元について

第1学年及び第2学年の「話すこと・聞くこと」の目標は、「相手に応じ、経験したことなどについて、事柄の順序を考えながら話すことや大事な事を落とさないように聞くことができるようにするとともに、話し合おうとする態度を育てる。」ことである。また、それらの能力を高めるために、(ア)知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話すこと、(イ)大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと、(ウ)身近な事柄について、話題に沿って、話し合うこと、の事柄について指導することになっている。

本単元は、自分たちが考えた発明品をみんなに紹介する活動を通して、相手によく伝えることができるように、話す順序を考えながら話す力や、大事なことを落とさないで聞き、感想を話したり分からないことを質問したりする力を育成することをねらいとしている。学習活動は二人組で「あったらいいな」と思うものについて話し合う、聞いている人に分かりやすく伝えるために話すことや順序を考える、別の組の人との発表の練習を行い、学級の前での発表する、と大きく3つに分かれている。

これらの活動を行えば、児童により話し方を理解させることができるとともに、聞き手に求められる望ましい姿勢を育てることもできると考える。

(2) 児童について

児童はこれまでに、「ともこさんはどこかな」の学習において、ものの特徴を分かりやすく説明することや、人物の特徴を落とさずに聞いたりすること、はっきりした発音、丁寧な言葉遣いで話すことを学習してきた。しかし、話し合うことにおいては、となりの児童と協力して活動することは経験しているが、話題に沿って話し合うことは初めてのことである。

(第3学年)男子3名 女子7名 計10名

- 1 単元名 「じゅんじょが分かるように、話したり聞いたりしよう」
教材名 「道あんないをしよう」

2 単元設定の理由

(1) 単元について

第3学年及び第4学年の「話すこと・聞くこと」の目標は、「相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話すことや話の中心に気を付けて聞くことができるようにするとともに、進んで話し合おうとする態度を育てる」ことである。また、それらの能力を高めるために、(ア)伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと、(イ)話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめること、(ウ)互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うこと、の事項について指導することになっている。

本単元は、道案内という活動を通して、話す時は筋道を立てて話すこと・相手に応じた話し方をすること、聞く時は大切な情報を聞き落とさない・分からないときは聞き返す力を育成することをねらいとしている。自分が知っている事柄を、知らない人に分かるように話すことは日常的にあまり経験のないことであり、言語活動としては高度となるため、容易に乗り越えられないと思われる。それは、相手のもっている知識や情報を想定しながら話すことが要求されるからである。

このことから、道案内という活動は、相手意識をもって話したり、聞いたりする姿勢を育てるためにより学習活動であると考えられる。

(2) 児童について

児童はこれまで、「みんな、こどもだった」の学習において、直接人に会ってインタビューするという内容の学習を経験してきた。そこで、話すときは相手によく分かるように話すこと、聞くときは大事なことを落とさないように聞くことを体験を通して学んできている。日常の活動では、朝の会や帰りの会で、テーマを決めてスピーチ活動を行ってきた。話すことに意欲的

スピーチの活動は好きな子どもが多く、朝のスピーチでは身近な出来事を友だちに話したり、聞いた話に対して質問したりすることができている。

しかし、話す内容を考え、聞き手を意識して順序よく話すこと、話の内容に共感したり、よさを認めながら聞いたりすることは十分ではない。

これは、話す順序や友だちのよさを表現する方法が分からなかったり、経験不足による、発表することへの抵抗があったりすることなどが原因と考えられる。

そこで本単元では、話し方や話し合うことに自信をもたせ、話す順序を考えさせながら話し、大切な点を落とさず聞く力を育てていきたい。

(3) 指導にあたって

学習を進めるにあたっては、児童の夢を膨らませ、自由な発想をもとに授業を展開したい。

発表に向けては、聞き手のことを十分に意識させて、聞き手に分かりやすく伝えるためには、話す順序をどうしたらよいか考えさせたい。

指導過程の中でよい話し方、聞き方について焦点を当てて指導し、互いのよさを認め合う中で、単元のねらいにせまりたい。

3 単元の目標

話し方を工夫して、自分たちが考えたことを発表することができる。

< 関心・意欲・態度 >

- ・ 「あったらいいな」と思うものについて、進んで考え、進んで話したり聞いたりしようすることができる。

< 話すこと・聞くこと >

- ・ 「あったらいいな」と思うものについて、それがどんなものか、理由は何かなど、話す順序を考えながら、聞き手に分かるように話すことができる。 (話・聞ア)
- ・ 名前や理由を落とさずに聞き、分からないことは質問することができる。 (話・聞イ)
- ・ どんなものが「あったらいい」か、組になった人と話し合っ決めて決めることができる。 (話・聞ウ)

< 言語事項 >

- ・ 「あったらいいもの」の名前や理由がよく伝わるように、はっきり話すことができる。 (言語ア(ア))
- ・ 丁寧な言葉遣いで発表することができる。 (言語オ(ア))

な子どもが多く、スピーチ後の感想や意見も非常に活発に出される。

しかし、相手のことを考えて、分かりやすく話そうとする姿勢はあまり見られず、一方的に話す事が多い。また、声が小さく何を伝えたいのか分からない児童もいる。これは、自分の思いや考えを伝えることで満足し、聞き手を意識していないということが原因として考えられる。

そこで本単元では、聞き手を意識しながら相手や目的に応じ筋道を立てて話す力と、話の中心に気を付けて聞く力を育てていきたい。

(3) 指導にあたって

学習を進めるにあたっては、はじめに教科書の道案内に従って目的地にたどり着けなかった原因を、話す側・聞く側の双方から考えさせる。その中で、話す時・聞く時に大切なことは何かというポイントをはっきりとつかませたい。

次に、実際に話し手、聞き手の立場に立って道案内の練習をしながら、単元のねらいにせまりたい。

3 単元の目標

道案内で大切なことを選び、相手に分かるように順序よく話したり、大切なことに気を付けながら聞いたりすることができる。

< 関心・意欲・態度 >

- ・ 道案内で大切なこと(目印・方向・順序など)を考えながら、進んで話したり聞いたりしようすることができる。

< 話すこと・聞くこと >

- ・ 道案内で大切なことを選び、相手に分かるように順序よく話すことができる。 (話・聞ア)
- ・ 大切なことに気を付けて聞くことができる。 (話・聞イ)
- ・ 聞き間違いやすい言葉に気を付けて話したり聞いたりすることができる。 (話・聞ア・イ)

< 言語事項 >

- ・ 大事な言葉の話し方・速さ・間の取り方が分かる。 (言語ア(ア))
- ・ 相手に応じた適切な言葉遣いで話すことができる。 (言語カ(ア))
- ・ 発音が似ていて紛らわしい語句があることを知り、語句を増やすことができる。 (言語ク(ア))

4 単元の指導計画 (5時間扱い) 3年

段階	時	目 標	学習内容・活動	評 価 規 準			手だて <言語意識>
				関心・意欲・態度	話す・聞く	言語事項	
つ	か	む	道案内では、相手に分かるように順序を考えて話すこと、大切なことに気を付けて聞くことが大切であることに気付くことができる。	・教科書の道案内を聞き、失敗の原因を考えながら、話し手・聞き手の大切なことを話し合う。	・道案内の学習の中で課題をもって学習に取り組もうとしている。	・目的地にたどり着けなかった原因は何かを考え、目印や方向などに気を付けて道案内をしている。	・印を付けることで、曲がる場所の目印や方向をはっきり言っていないことに気付かせる。 目的意識
ふ	か	め	相手に応じた話し方で道案内ができる。	・2年生の女の子やおばあさんなど、相手に応じた道案内をするために大切なことを話し合い、練習する。	・話すとき、聞くときに大切なことを考えながら、話し手や聞き手の役を交代しながら練習しようとする。	・相手に応じて聞き手に分かるように相手に応じた言葉遣いで道案内をしている。 ・友だちの道案内を聞き、迷ったところで聞き返している。	・相手に応じた適切な言葉遣いで話している。 ・相手が2年生、おばあさんのそれぞれの場合について、どんなことに注意して道案内をすればいいかについて話し合わせる。 相手意識
	本	時	話すとき、聞くときに大切なことを考えて道案内をすることができる。	・教科書の地図を使って、会った場所・相手・目的地などを自分たちで設定し、道案内の練習をする。 ・実際に自分たちの住む地域を想定して道案内の練習をする。	・状況を想定して、話し手や聞き手の役を交代しながら進んで練習しようとする。	・道案内で大切なことを確認し、想定した相手に応じた言葉遣いで話している。 ・友だちの案内を聞き、迷ったところで聞き返している。	・相手に応じた適切な言葉遣いで話している。 ・聞き手はだれなのかを意識させて、道案内に取り組みさせる。 相手意識 ・どこで会った、どんな人にどこまでの道案内をするのかははっきりさせる。
ま	と	め	道案内で学んだ、話し方・聞き方で大切なことを理解し、今後の生活に生かそうとすることができる。	・道案内のポイントを確認し、日常生活での話す・聞く活動への取り組み方を考える。	・話し方・聞き方で大切なことに気を付けながら、進んで活動に取り組もうとしている。	・話し方・聞き方で大切なことを考えながら、話したり、聞いたりしている。	・相手に応じた適切な言葉遣いで話している。 ・具体的な相手を意識させながら活動に取り組みさせる。 相手意識

4 単元の指導計画 (14時間扱い) 2年

段階	時	目 標	学習内容・活動	評 価 規 準			手だて <言語意識>
				関心・意欲・態度	話す・聞く	言語事項	
つかむ		「あったらいいな」と思うものに興味をもち、考えることができる。	・「あったらいいな」と思うものを想像し、学習の見通しをもつ。	・興味をもって「あったらいいな」と思うものを想像しようとする。			・「あったらいいな」と思ったことの経験を話させ、意欲付けを図る。
		どんなものがあったらいいと思うか、具体的に考えることができる。	・「あったらいいな」と思うもの考える。 ・例を聞き、もっと知りたいことを発表する。	・意欲的に「あったらいいな」と思うものを考えようとしている。	・知りたいことを、相手に分かるように発表している。		・一つの例を挙げ、もっと知りたいことを発表させる。
ふかめる		話し合いをするときに気を付けることをもとに、「あったらいいな」と思うものを話し合い、決定することができる。	・どんな話し合いがよいか考える。 ・二人一組になって話し合いを行い、発明品を考える。	・相手の話を受けながら、自分の考えを積極的に述べようとしている。	・「あったらいいな」と思うものについて、二人で互いの考えを出し合いながら話し合っている。	・相手のことを考えて、はっきりとした話し方をしている。	・話し合う目的と、話し合う時に気を付けることを確認させる。 目的意識
		聞いている人に分かりやすく伝えるためには、どんなことを話したらよいかを考えることができる。	・二人組で話し合い、聞いている人に分かりやすく伝えるために気を付けなければならないことを考え、発表することを決める。	・相手の話を受けながら、自分の考えを積極的に述べようとしている。	・発表するものについて、二人で互いの考えを尊重しながら話し合っている。	・相手のことを考えて、はっきりとした話し方をしている。	・聞いている人に分かりやすく伝えるためには、どのように話せばいいのか考えさせる。 相手意識
	本時	聞いている人に分かるように伝えるには、どんな順序で話せばいいのか考えることができる。	・発表することを項目ごとにカードに記入し、話す順序を考える。	・進んで発表することをカードに記入し、話す順番を考えている。	・どのような順序で発表すればいいのかを考え、話し合っている。		・聞いている人に分かりやすく伝えるためには、どんな順番で話せばいいのか考えさせる。 相手意識
		聞いている人に分かりやすく伝えるために発表の練習をすることができる。	・二人組で発表の練習をする。	・進んで発表の練習に取り組もうとしている。	・自分たちが考えたものについて、話す順序や準備するものなどを工夫して話すことができる。	・相手のことを考えて、はっきりと丁寧な話し方をしている。	・どのように話したらいいのか考えさせて、場合によってはノートに書かせるなどして自信をもたせてから発表の練習をさせる。 相手意識

	グループで交代して発表の練習を行い、気付いたことを教え合うことができる。	・二組が一緒になって発表の練習を行い、気付いたことを教え合う。	・進んで練習に取り組もうとし、相手の発表のよいところを見つけようとしている。	・話す順序や準備するものなどを工夫して発表している。 ・発表を聞いて、アドバイスしている。	・相手のことを考えて、はっきりと丁寧な話し方をしている。	・前時に確認した、発表のときに気を付けることを確認してから発表練習をさせる。 相手意識
	発表会の流れを知り、発表会の準備をすることができる。	・発表の聞き方を確認させ、発表会の流れを知る。	・進んで発表会の準備をしようとしている。			・教科書を参考に、発表会の様子をつかませる。
ま と め る	発表会をし、しっかり発表するとともに、友だちの発表を聞いた感想をまとめることができる。	・発表会を行い、発表を聞いた感想をカードにまとめる。	・進んで発表し、友だちの発表に対して感想を述べようとしている。	・友だちの発表を聞き、話題に沿って感想を話したり、分からないことを質問したりする。	・聞き手に分かるように、姿勢や表情に気を付けながら、はっきりとした発音、丁寧な言葉遣いで話している。	・感想を言う人が偏らないように、全員からうまく引き出せるように助言する。 ・賞状を書くことを知らせ、しっかりと聞き、よさを見つけることができるようにさせる。 目的意識
	友だちの発表のよかったことを賞状に書き、認め合うことができる。	・賞状を書き、賞状の伝達を行う。	・友だちの発表のよかったところを見つけて、主語と述語の関係に注意しながら賞状を書こうとしている。			・前時にまとめておいたノートをよく見て、よかったことをどう書けばいいかを考えさせる。 相手意識
	発表会までの学習を振り返り、発表会をした感想をまとめることができる。	・いままでの活動を振り返り、感想を書く。	・進んで感想をまとめようとしている。			・今までのノートやカードをもとに、自分の頑張りや楽しかったことなどをまとめさせる。

5 本時の指導 (5/14) 2年

(1) 目標

進んで話す順序を考えようとしている。

(関心・意欲・態度)

聞いている人に分かるように伝えるためには、どんな順序で話せばいいのかが決めることができる。
(話・聞 ア)

(2) 授業仮説

項目ごとのカードを並び替える活動を通し、相手意識を明確に持たせる活動を行えば、自分たちの発明品を聞いている人に分かりやすく伝えることができるのではないかと。

(研究仮説 1)

(3) 展開

具体の評価規準と手だて	支援と指導上の留意点	学習活動	段階
	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習を振り返り、学習の要点を確認させ、学習の見通しをもたせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> じゅんじょを考えて話す。 ないようをおとさずに話す。 ちょうどよい声の大きさ、はやさで話す。 </div>	<p>1 前時の学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分かりやすく伝えるためには、どんなことに気を付けなければならないかを確認する。 <p>2 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>はつめいひんをみんなに分かってもらうためには、どんなじゅんばんではつびようすればいいのか考えよう。</p> </div>	<p>つ か む 5 分</p>
<p>A 聞いている人に分かりやすい発表にするには、どのような順番で話せばいいのかをいくつか考え、グループでの話し合いを通して、理由を明らかにしながら、決めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 項目が書いてあるカードを配布し、グループで相談してそれぞれのカードに記入させる。 項目以外の点についても、カード1枚につき、一つずつ書いてよいことにする。 カードは、発表メモとして使うので、あまり詳しく書かなくてもよいこととする。 教科書の順番にとらわれず、グループで相談して、いろいろ並び替え、どの順番にすると分かりやすいか、実際に発表の練習を通して、決めさせる。 聞き手のことを十分に意識させて、聞き手に分かりやすく、 	<p>3 自分たちの発明品について、項目ごとにカードに書く。</p> <p>4 グループで相談して、話す順番にカードに番号を付け、話す順番を決める。</p>	<p>ふ か め る 32 分</p>

<p>B 聞いている人に分かりやすい発表にするのは、どんな順番で話せばいいのかを考え、話し合い、決めている。</p> <p>(達成不十分な子どもへの手だて) 一番伝えたいことは何かを考えさせる。 (観 察)</p>	<p>そしてアピールするには、話す順序をどのようにしたらいいのか考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれのグループで考えた話す順序を発表させ、どの順番で発表すれば分かりやすいのかを確認する。 ・ その順序にした理由も話させる。 	<p>5 グループごとに話す順番を発表する。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や友だちの頑張ったところを発表させ、意欲付けを図る。 ・ 練習の結果を反省項目をもとに自己評価させる。 	<p>6 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価する。 ・ 感想を書いて発表する。 ・ 教師がまとめる。 <p>7 次時の学習について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで発表の練習を行う。 	<p>ま と め る 8 分</p>

5 本時の指導 (3/5) 3年

(1) 目標

- 進んで道案内をしようとしている。 (関心・意欲・態度)
- 話し手として、大切なことを考えながら道案内ができるとともに、聞き手として分かりな
いことを聞き返すことができる。 (話・聞 ア)
- 適切な言葉遣いで道案内をすることができる。 (言語力(ア))

(2) 授業仮説

道案内の仕方について話し合い、それをもとに練習する中で相互に評価していけば、相手
に応じた言葉遣いで分かりやすい道案内の応答ができるのではないかと。(研究仮説 2)

(3) 展開

段階	学 習 活 動	支援と指導上の留意点	具体的評価規準と手だて
つ か む 5 分	<p>1 前時の学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 反応を確かめながら道案内をする。 ・ 相手に応じて道案内をする。 <p>2 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>大切なことを考えながら、 分かりやすい道案内をしよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの学習を振り返り、学習の要点を確認させ、学習の見通しを持たせる。 ・ 今まで学習したことを振り返れるよう道案内の大切なポイントや言葉遣いをまとめたものを掲示しておく。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ どこから、どこまで行くのかをたしかめてから話す。 ・ じゅんじょが分かるように話す。 ・ 目じるしになるものや、曲がる時の方向などを話す。 ・ 相手におうじた言葉づかいで話す。 ・ 分からなくなったところでしつもんしてたしかめる。 </div>	
ふ か め る 32 分	<p>3 分かりやすい道案内の仕方を練習する。</p> <p>(1) 道案内で大切なことを確認する。</p> <p>(2) 1対1で道案内の練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 順序、目印、方向を伝えることが大切であることを確認する ・ 「どこであった」「どんな人に」「どこまでの」道案内をするのかははっきりさせてから練習させる。 ・ 友だちの道案内が分からない児童には、道案内を聞きながら地図をたどらせ、迷ったところで質問させるようにする。 ・ 相手に応じた道案内ができない時には、発表話形や発表ポイントに着目させる。 	<p>A 道順、目印となるものや曲がる方向など、道案内をするのに大切な事を押さえながら、相手に応じた言葉遣いで道案内をすることができる。</p> <p>B 目的地までの道順、目印となるものや曲がる方向などが分かり、道案内をすることができる。</p> <p>達成不十分な子どもへの手だて 前時の学習を想起させるとともに、相手が誰であるかを確認し、発表話形や発表ポイントに着目させる。 (ワークシート・観察)</p>

	<p>(3) 代表児童の道案内を見て、どのような道案内をすれば分かりやすいのか話し合う。</p> <p>(4) 1対1で道案内の練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 代表児童の発表を見て、よりよい道案内の仕方について、話し合いを行い、自分たちの道案内に生かせるようにする。 1回目の練習の課題が解決できるよう、課題意識をしっかりとたせて発表させる。 	<p>A 道案内を頼む人になったつもりで、友だちの案内を聞きながら、迷ったところでたずね返すことができる。</p> <p>B 友だちの道案内を聞きながら、道順や目印となるものをメモをとったりしながら、聞き返して聞いて、分からないところで聞き返すことができる。</p> <p>達成不十分な子どもへの手だて 友だちの話をしっかり聞くように促し、目印に印を付けさせる。</p> <p>(ワークシート・観察)</p>
<p>ま と め る 8 分</p>	<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己評価する。 感想を書いて発表する。 教師がまとめる。 <p>6 次時の学習について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校区図を使って道案内をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習について自己評価させ、自分が大切なポイントを意識して話せたか確認させる。 自分や友だちの頑張ったところを発表させ、意欲付けを図る。 	